

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent・File」では、時代の趨勢となつている予防歯科への潮流の中で、日々活動されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。



宮城県南三陸町で予防歯科を中心に、地域密着の歯科医療に取り組んでいた佐藤歯科クリニックは、2011年3月の東日本大震災で、一度はすべてを失いました。しかし、最悪の状況下でも歯科医療への情熱を持ち続けた佐藤院長は、同年12月に、隣接する登米市に「グリーンヒルズ・デンタルクリニック」として移転開業し、新たな歩みを始めました。地域の人々の口腔健康のために「できるだけ治療をしない診療」を掲げ、医療活動にまい進しています。

## 南三陸をう蝕から守るため 予防歯科に立ち上げる

当院は1993年に佐藤歯科クリニックとして、南三陸町で開院しました。宮城県北部地域は、子どものう蝕罹患率が非常に高い地区です。さらに、当時の宮城県は3歳児のう蝕罹患率が全国一で、私がいいた南三陸町はその中でも一番でした。「もしかすると、ここは日本が一番う蝕が多い地域かもしれない」と思った私は、地域の口腔健康に貢献するため、予防歯科に着目した取り組みを始めました。

具体的な取り組みとして、MTM(メデイカルトリートメントモデル)を採用しました。これはスウェーデンの

カリオロジ(う蝕学)の父とも言われているポー・クラッセが唱えた「医療の観点」という概念を基に、山形県・日吉歯科診療所の熊谷崇先生が提案した予防歯科診療システムです。

その流れは、まず患者さんの訴えを聞いて、必要に応じて検査をする。次に病気の原因を除去して、失った機能を回復。その後、結果をモニタリングして再発予防処置をするというものです。医療としてはごく当然の流れですが、我々歯科にとっては欠けている考え方であると思つた私は、この考えに強く賛同し、現在までひた向きに取り組み続けています。

MTMを採用した当初は、できるだけ治療をせずに予防をしていくという考えに対して、患者さんの理解を得るのにとても苦労しました。「まずは検査から始めます」と伝えると「検査よりも早く治療をしてくれ」という患者さんはとても多かったですし、中には納得してもらえず「やっぱり帰る」という方も少なくありませんでした。

それでも当時600名ほどいた患者さんに、一人ずつ根気良くMTMについて説明していき、半年ほどかけて約9割の方にご理解いただけるようになりました。



# 震災を乗り越え、 愚直に予防歯科を 続ける歯科医院

グリーンヒルズ・デンタルクリニック

院長 佐藤 長幸 先生

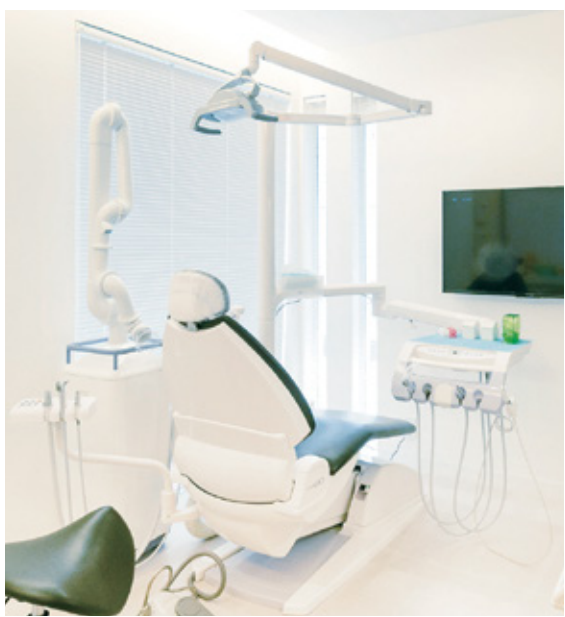




## 地域の人の8%を受け持つことが 大きな目標

医院を再開するときはとても切羽詰った状況で、元の医院と同等の質と規模を取り戻そうと必死で努力してきました。軌道に乗るまで4年ほどかかりましたが、現在では、以前と同等程度に経営も回復し、来院患者数に関しては以前を超えるほどになりました。

軌道に乗せることを第一の目標としていた一方で、再開当時から長期的な目標も掲げていました。その目標とは「10年間で、当院に通える範囲にいる地域の人の8%をメインテナンスする」ということ。現在、医院一丸となつて、その目標に向かってまい進しているところです。これは、地域人口の8%程がメインテナンスを受ける習慣が根付くと、地域の口腔健康度に影響を及ぼすことができるだろうと私が仮定して決めました。



医院の増築は、その目標を達成するための取り組みの一つです。地域の8%が当院に来るということは、私の目算ではおよそ6000人のメインテナンス患者を抱えるということになります。3カ月に1度メインテナンスと考えると、月に2000人。月に20日間診療するとすると、1日100人の患者さんが来院します。そのためには、あと5台、計10台のメインテナンスユニットが必要です。すでに建物は増築を終えており、まもなくユニットを入れて、いつでも使用できるように工事を進めています。そして、人員増強にも取り組んでいます。メインテナンスの患者さんを増やしていくことは、当然、歯科衛生士・歯科アシスタントの人数も充実させなければなりません。

また、歯科医師の人数も問題だと感じています。いま当院の歯科医師は私一人。日に100人ほどの患者さんが来れば、歯科医師も私一人では到底間に合いません。これから医院を広げていくにあたって、一緒に働く歯科医師も確保していきたいと考えています。

## これからも地域の口腔健康に 貢献し続けるために

医院の経営を再開してから、苦労もたくさんありましたが、比較的順調にここまで進んでくることができたのではないかと思います。しかし、これからも長く医院を続けていくには課題もあるのは確かです。

新しい歯科衛生士を育てることも重要ですが、長く勤めている歯科衛生士たちの教育も大切です。特に当院は担当歯科衛生士制を採用しているので、患者さんのお付き合いが長くなるほど、診療がマンネリ化して、同じ知識では患者さんに満足してもらえなくなります。患者

さんのためにも、そして歯科衛生士自身のモチベーションのためにも、学びの機会はさらに充実させていこうと思っています。

私は現在52歳。まだまだ現役とはいえ、医院継承についても、これからの大きな課題だと個人的には感じています。当院は子どもを持つスタッフが多いので、「子どもを歯科衛生士や歯科医師に育てて、引き継いでくれないか」とスタッフにはよく言っています(笑)。少し冗談交じりに言っていますが、私の医院がきっかけで歯科に本気で興味を持ち、その気になつてくれればとても嬉しいですね。

以前、当院でアンケートを行ったところ、ある患者さんが「メインテナンスは健康のための投資だと思っている」とコメントしていました。これはまさに我々がいま患者さんに伝えたいことです。こういった意識を地域に根付かせるために、これからも末永く続けられるよう、日々頑張りたいと思います。



### 佐藤 長幸(さとうながゆき)先生 プロフィール

岩手医科大学卒、東北大学大学院歯学研究科卒  
宮城県雄勝町国保病院歯科での勤務を経て1999年に宮城県南三陸町に佐藤歯科クリニックを開業。2011年、登米市にグリーンヒルズデンタルクリニックを移転開設し、現在に至る。2010年から、アメリカ歯周病学会に所属。

# やる気に満ち溢れた グリーンヒルズ・デンタルクリニックの主役たち



歯科衛生士  
佐藤 千恵さん



歯科衛生士  
高橋 優さん



歯科衛生士  
佐藤 由希さん



歯科衛生士  
猪股 仁美さん



歯科衛生士  
菊田 彩紀さん

## スウェーデンでの学びが 毎日の診療の活力に

高橋

私は2年前のスウェーデン研修に参加しました。日本との制度の違いから自分の仕事にもどかしさを感じましたが、いま自分にできることは、日々の診療で患者さんにしっかりと向き合うことだと気付かされました。

昨年、育児休暇で8カ月間休んでいたのですが、今はそのブランクを取り戻すことで精一杯です。技術も知識もまだまだ足りていないと感じるので、研修やセミナーにどんどん参加して勉強していきたいと思っています。

佐藤(千)

私は今年の6月末から1週間ほどの日程で行われたスウェーデン研修に参加しました。技術の違いはもちろん、一人ひとりの患者さんに対する責任感の強さを目の当たりにして、感銘を受けました。制度が異なるため、できることに違い



はありますが、「患者さんの口を綺麗にする」という目的は私たちと同じで、決して近づけないものではないとも感じました。

「地域のメインテナンス率8%」をはじめとして掲げられている医院目標の達成のためにも、個人のスキルアップはとても重要です。目標をクリアするために、自分には何ができるのかを考えながら日々診療しています。当院のスタッフは勉強熱心で、やる気に満ちていますので、きつと目標も達成できるだろうと思っています(笑)。

菊田

私も今年の6月末、スウェーデン研修に参加しました。向こうの歯科衛生士さんから直接SRPや超音波スケーラーの使用方法などを教わり、最先端の技術をかなり細かい部分まで学ぶことができました。具体的なアドバイスもしていただき、とても貴重な経験でした。

当院に入職して1年が過ぎましたが、当院で予防歯科に出会い、学校で習ったことだけでは対処できないというところを日々実感しています。しっかり勉強して、自分の引き出しを増やして患者さんと向き合うことがいまの課題だと思っています。

佐藤(由)

現在子育て中ということもあり、まだ海外研修へは参加したことはありませんが、参加した人に話を聞いて自分のやり方を考える日々です。子育てが一段落したら、必ず行きたいと思っています。

私は、担当する患者さん一人ひとりにあつた指導で全員の意識を上げていくことを目標にしています。患者さんのやる気も人それぞれですが、どんな人も否定せず、口のことに限らずどこか良いところを必ず見つけて、そこを褒めてから帰っていただくようにしています。

猪股

私も今は子育ての真っただ中で、まだ復帰して間もないため、勉強しなければならぬ課題が山積みです。当院ではよくお昼休みを使って情報交換を行うため、海外研修の話も聞けて、とても助かっています。

これからも、家事と仕事の両立を頑張りたいと思っています。子どもが小さいのでなかなか難しいことではありますが、先人の方々を見習って、少しずつクリアしていきたいと思えます。子育てが落ち着いたら勤務時間も伸ばしたいですね。